

積層のまち

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1140035 岡田 廉太郎

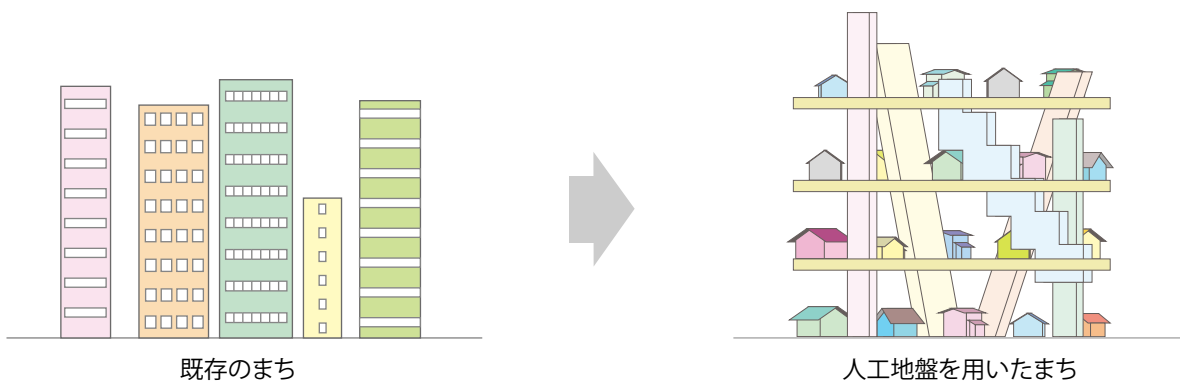
1. 背景と目的

現在、高知市中心市街地では建物の高層化が進んでいる。

しかしこうした高層化していくまちにおいて、ビルやマンションは効率を求めた姿で、細切れになった敷地に身勝手に立ち並んでいる。各々のビルで動線は完結し、横の広がりも見せず、立面にも平面にもさほど特徴は見られない。

このような高密度化し、単純化された都市空間において、人々は純粋にこの街を楽しめているとは言えないように私は感じた。

そこで、建物に対して様々なアプローチ、また多様な風景を生み出すために人工地盤を利用し、都市に必要な機能を複雑に絡めながら高層化していくまちを提案する。



2. 敷地概要

対象敷地は、高知市追手筋、追手前小学校跡地の東隣りである。周辺には路地が伸び、居酒屋やバー、スナックが軒を連ねている(図2-3)。また追手前高校や土佐女子高校、高知県立大学など、教育機関も集中した地域である(図2-4)。



図2-1 敷地北西



図2-2 敷地南東



図2-3 敷地周辺①

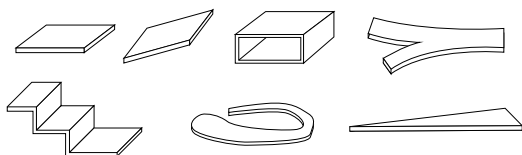


図2-4 敷地周辺②

3. コンセプト

・地盤の形状

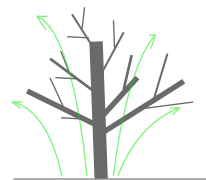
様々な地盤形状を組み合わせる事で、表情豊かな立面が生まれ、居住空間にも特徴が生まれる。



3-1. 地盤形状イメージ

・柱の形状

木の枝の広がるイメージを用いる事で、下層の繁華街の密集した地域から、上層に向け一つ一つの戸建て住宅が広がる様子を想起させる。



3-2. 柱形状イメージ

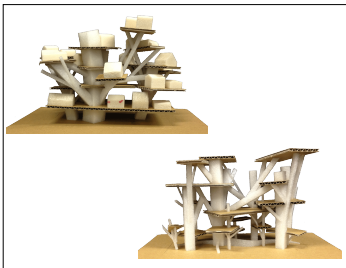
戸建て住宅

寮・集合住宅・SOHO

繁華街

3. 設計方針

今設計では上層に向かうにつれ地盤が広がっていく様子を表現する一方で、地盤と柱とが複雑に絡み合い、様々なアプローチ、配置計画を生み出す事が目的となる。よって全体の設計方針としては、地盤と住宅を併せた全体のヴォリュームの決定をまず行い、そこから平面、断面に至る詳細部分の設計へと至る方針とした。



地盤形状、また地盤を支える構造となる柱の部分についてスタディをかさねる。



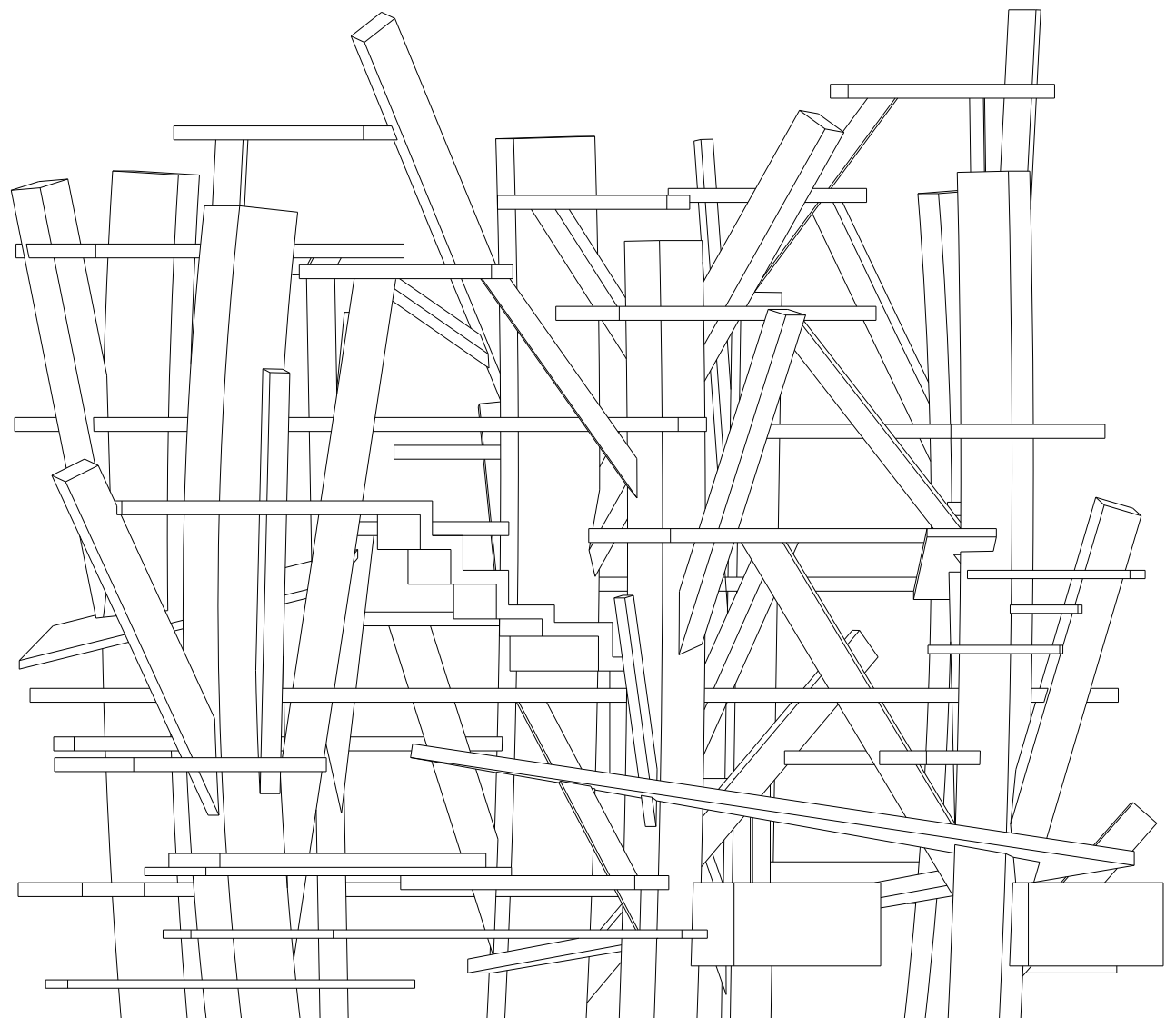
スケールをあげ、地盤、柱、住宅を配置した際のヴォリュームを確認する。



最後にヴォリュームの偏り、住宅の配置を調整したものを作り原型の完成。

4. 計画

最下層の繁華街の密集した地域から、単身者住宅、学生寮、SOHO型住宅、戸建て住宅と上層に向けて地盤と共に広がっていく計画とした。また下層だけでなく上層部にも、喫茶店やギャラリー、床屋、レストランなど、店舗をつくり、ひとつのまちのように計画した。



南立面図 1:500